



京まなびい News Letter ニュースレター

京都市教育委員会事務局生涯学習部

豊かな人生は学びとともに

京都市では、生涯学習の計画の立案をはじめ、家庭・地域の教育力の向上や京都の豊かな学習資源の活用など、生涯学習全般に関し教育委員会に助言を行う「社会教育委員」を委嘱しています。第34期委員(令和元年7月～令和3年6月)の皆様には、社会教育委員会議において様々な角度からご提案いただきました。その一部をご紹介します！

第34期京都市社会教育委員の提言、活動を紹介します！

吉川 左紀子 議長 京都芸術大学(旧名称 京都造形芸術大学) 学長・文明哲学研究所所長

第1回「学校を核とした地域協働・生涯学習」
※赤字は審議テーマ

人生80年90年となってきた時に、学校教育よりも生涯学習、社会教育に触れる期間がずっと長くなると感じています。人生を豊かにし、ますます重要になる社会教育をどう充実させていくか、会議の意見を京都市の社会教育に生かしていただければと思います。



本郷 真紹 副議長 学校法人立命館理事補佐、立命館大学文学部教授

第1回「学校を核とした地域協働・生涯学習」

京都は市民の中に占める学生の割合が大きく「学生力」を活かせないか、と考えています。学生が地域と関わる事は学生にとっても社会を考える非常に重要な契機にもなり、地域にとってもお互いによい面があると思います。



石川 一郎 氏 京都新聞社論説委員長

第4回「新しい生活様式における生涯学習」

ネットで表層的なことはわかってより更に調べようと思うと、やはり紙のものに当たるといのはとても大事なことです。図書館はアナログではありますが、「知の宝庫」です。今後オンラインを主体としながらも、どう活用していくか、検証していくことが大事かと思っています。



稲垣 恭子 氏 京都大学理事・副学長

第4回「新しい生活様式における生涯学習」

オンライン会議は参加率が高くなるなど、いろんな制約を超えてグローバルに開かれるメリットがあります。一方で全て言語化した情報に詰め込んで伝えなければならず、何段階かに場の設定を変えていく、フォーマルからインフォーマルへのグラデーションの場が必要だと感じます。



大澤 彰久 氏 平成30年度京都市PTA連絡協議会会長

第4回「生涯学習の情報発信」

学校が休校中、PTAメールによる保護者アンケートを行いました。「早く学校を再開して欲しい」「いや、まだ反対だ」と様々な意見をいただきました。これは教育委員会にもお伝えしGIGAスクール構想など、従前よりスピードアップして取り組んでいただいております。



片山 九郎右衛門 氏 観世流能楽師

第6回「伝統文化の継承」

「伝統」とはおそらく目に見えない風のような匂いみたいなものをきちんと大切に次代に送っていくこと。それが残れば他は飛躍しても構わないのではないかと。「ものの哀れ」といったあやうさが古典芸能の美しさ、妖しさでもあり、ひいては京都の持っている価値観ではないでしょうか。



櫻井 寿美 氏 市民公募委員

第3回「これから求められる生涯学習」

例えば障害があって施設で生活されている方などの視点も、これからの生涯学習を考える上で必要だと思います。SDGsの観点からも、取りこぼされてしまいがちな方も一緒に学べるようにしていただきたいと思います。



社会教育委員についてもっと知りたい方へ…

京まなびネット
会議の摘録や、委員が講演を行う「京まなびミーティング」の動画・摘録を公開しています！



京まなびネット

佐竹 美都子 氏 株式会社西陣坐佐織代表取締役、アテネオリンピックセーリング競技日本代表

第1回「学校を核とした地域協働・生涯学習」

私自身もそうですが、学校以外、例えばスポーツの場など違う場所に身を置くことで幅を広くして学ぶ事もあると思います。できるだけ学校以外のいろんな人と関わる機会が増えるようなネットワークづくりが大切だと思います。



園部 晋吾 氏 NPO法人日本料理アカデミー理事(地域食育委員会委員長)、山ばな平八茶屋主人

第7回「食文化」

食事の目的は「生きるため」もそうですが、「楽しむため」でもあり「人と人をつなぐ」、ものすごく大事なものです。食文化とはただおなかを満たすのではなく、心を満たしていくもの。文化を大事にして子どもたちにも分かりやすく伝え、次世代につなげていきたいと思っています。



豊田 まゆみ 氏 京都市地域女性連合会常任委員

第2回「まちづくりへの学生の参画」

自治会や女性会など高齢化してきている各種団体は、若い力が欲しいと考えています。地域の若い方々と連携していきたいのですが、どのように声かけをしてよいかわからない部分があり模索中です。



榎木 良子 氏 同志社大学日本語・日本文化教育センター嘱託講師

第6回「伝統文化の継承」

京都市立高校で着物を通して職人さんや着物にまつわる文化が京都にあることを伝えています。多感な時期に体験してもらうことは、やりがいがあり、芽を出し花を咲かせてくれればと思います。地道にやっていくしかないかと思っています。



森 清顕 氏 清水寺執事補、上智大学グリーンケア研究所非常勤講師

第6回「伝統文化の継承」

清水寺の舞台の屋根のふきあげや板の修復も、技術伝承が大変難しいです。着ている衣も材料や作り手が少なくなってきています。伝統文化を守るだけでなく、日常生活に少しでも取り入れ、親しみを持つことが必要ではないかと思っています。



鈴鹿 可奈子 氏 株式会社聖護院ハッ橋総本店専務取締役

第7回「食文化」

和の器もないし和菓子も食べない、と仰る方もおられますが、好きな器を使い、好きな飲物と合わせて、まずは体験するところから入ってもらえればと思います。そこから「このお菓子に合うあの器を買ってみようか」と、文化の裾野が広がってくれば、一番です。



田村 穂絵 氏 市民公募委員

第2回「まちづくりへの学生の参画」

学生ボランティアとして、学校現場に参画しています。なかなかボランティアとしての役割と、受け入れる学校の体制が合わないところがあるのかもしれない。学生ボランティアと先生方の連携、つながりを円滑にできればと思います。



廣岡 和晃 氏 日本労働組合総連合会京都府連合会会長

第3回「これから求められる生涯学習」

キーワードとしては「いろいろな選択肢を選ぶ」ようにしていただきたい。京都ならではの地域を基軸として、お金をかけずにリカレント教育をやっていたら、と思います。また先達の「生の声」を聴く機会も大事にしていきたいと思います。



松岡 直子 氏 京都市小学校長会理事、京都市立祥栄小学校 校長

第5回「新しい生活スタイルの中で地球環境を考える」

小学校では理科の学習だけでなく、いろいろな教科で環境問題を取り上げています。4年生で行う環境に対する取組が6年生の国語のSDGsの授業で生きてくるなど、教科がにつながる取組も始まっています。



安成 哲三 氏 前総合地球環境学研究所 所長

第5回「新しい生活スタイルの中で地球環境を考える」

地球温暖化の問題、いかに二酸化炭素を減らすかが全世界的な課題となっています。コロナを契機に社会を単にV字回復で元に戻すのではなく、気候変動を抑え、生態系を守りながら、新しいかたちでの回復を考えないといけません。



令和3年7月1日に第35期社会教育委員を委嘱しました。新しい委員もお迎えし、議論いただいています。ご意見を生涯学習のまちづくりに生かしていきます。

「京(みやこ)まなびいニュースレター」の内容についてのお問合せ先

京都市教育委員会事務局生涯学習部(生涯学習推進担当)
京都市中京区富小路通六角下がる骨屋之町549(元生祥小学校)
TEL:075-251-0410 FAX:075-213-4650 メールアドレス:shogaigaku@edu.city.kyoto.jp

